

## 委員長報告書

経済建設委員会は、令和元年8月6日（火）、7日（水）の2日間 新潟県見附市において イングリッシュガーデンについて、同県三条市においてものづくりの活性化について、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

### 記

見 附 市	市制施行	昭和 29 年 3 月 31 日
	人 口	40,294 人
	世 帯 数	14,985 世帯
		(令和元年7月1日現在)
	面 積	77.96 k m <sup>2</sup>

新潟県中央部に位置する市であり、中越地方に属している。県内にある市で最も小さい面積となっている。当市では、病院・公共施設など生活に欠かせない施設をまちなかにまとめ公共交通で繋ぐといった「コンパクトシティ」の発想に、体と心を動かし、いつまでも「健幸」に暮らせる「スマートウェルネス」の考えを取り入れた独自のまちづくりを進めている。

### 視察事項

#### 【イングリッシュガーデンについて】

##### 1. イングリッシュガーデン建設に至る経緯

新潟県営中部産業団地の建設により創出された公園緑地を活用し、見附市が公園整備を行うこととなったことがきっかけ。

公園緑地の周りには工場があり、都市排水路が流れているなど悪条件の環境であったため、英国に習い、逆に無機質な街の真ん中に緑の空間を作るといった特徴ある公園づくりという観点で、英国研究家のケイ山田氏に公園監修を依頼しイングリッシュガーデンとして整備。平成21年度に全面開園。

公園建設にあたり、①幅広い世代の交流が生まれる公園、②市民と協働で管理運営する公園、③市内外に発信できる個性と魅力を持った公園という3つのコンセプトを掲げている。

## 2. 整備事業費費（H18～20年度）

総事業費：約 600,000 千円（国：都市公園等統合補助事業 補助率 50%）  
工事請負費 569,000 千円、設計等委託料 15,000 千円、事務費  
16,000 千円

財源内訳：補助金 300,000 千円、起債 270,000 千円、市一般財源 30,000  
千円

## 3. 施設概要等

全体面積：2.2ha（公園部分 1.6ha）

- ・ボーダーガーデン
- ・芝生広場とバラのバーゴラ
- ・こども広場とミニガーデン
- ・ガーデンカフェ
- ・飲食物品販売施設「MEG CAFÉ 511」等

植栽数：1,000 種類以上、約 30,000 本

開園時間：4月1日～11月30日 午前8:40～日没

入園料：無料（管理協力金としてひとり 100 円程度あり）

## 4. 施設の管理運営方法

管理方法は、市の直接運営。職員数は正職員が 1 名、非常勤職員 4 名、このほかに市民ボランティアの方々が植栽管理に携わっており、機械を使うような専門的な業務については業者に外部委託している。

市民ボランティア団体が中心となって植栽管理を行っている点がイングリッシュガーデンの大きな特徴である。

## 5. 市民ボランティア「ナチュラルガーデンクラブ」

### （1）発足までの経緯

「市民との行政の協働」を掲げる見附市は、公園の運営は市民を中心とした活動組織で行うこととした。このため、イングリッシュガーデン開園 4 年前の平成 17 年に市民を中心とした公園サポーター組織「ナチュラルグリーンガーデンクラブ」を立ち上げた。

### （2）ナチュラルガーデンクラブの活動

- ・サポーター会員（有償ボランティア）42 名・・・実際に作業をしている方
- ・一般会員（無償ボランティア）82 名・・・イベント時の参加や会報誌の購読等

### (3) 管理役割分担

育苗作業、植栽デザイン、植栽作業、植栽メンテナンス、イベント時の協力について市は謝金を払っている。ガーデン作業は定期的かつ高い知識と技術力が要求されること、また交通費やグローブ、長靴など作業に必要な資材の費用補償として、500円/時間・人をボランティアの方々にお支払いしている。

上記以外については、市の管理で行っている。業務体系としては、イングリッシュガーデン担当職員（建設課）、イングリッシュガーデン常駐の臨時職員4名。主に常駐の臨時職員がナチュラルガーデンクラブとの調整を行っている。

## 6. 年間来場者数の推移

H25年度	134,125人
H26年度	143,909人
H27年度	141,786人
H28年度	142,414人
H29年度	140,939人
H30年度	158,152人 (MEG CAFÉ 511 利用含む)

## 7. 年間の協力金金額（協力金として募金箱を園内に設置。）

H25年度	1,580,277円
H26年度	1,725,067円
H27年度	1,737,474円
H28年度	2,026,297円
H29年度	1,905,212円
H30年度	2,131,326円

## 8. 見附市飲食物品販売施設「MEG CAFÉ 511」

飲食の提供やお土産の販売をはじめ、憩いややすらぎの空間として利用してもらい、来園者の満足度の向上及び地場産品の利用・販売を通して地域産業の振興を図る目的で、イングリッシュガーデン内に、飲食物品販売施設を平成30年4月にオープン。運営方法については、指定管理者制度を導入。運営において、収入額が支出額（管理運営経費等）を上回った場合、その差額の1/2を市へ納入している。

## 9. まとめ

地方自治体において近年、地域の特性に応じた公園づくりが行われ、多様化している。また、公園の運営についても、より効果的かつ柔軟に運営するという視点から、市民や民間企業の力を活用するケースもある。

見附市の事例は、公園の周辺に工場があるなど悪条件のなか、発想の転換により、あえて無機質なまちに緑の空間を作ることで注目を集め、市内外からの多く来場者が訪れている。公園の管理については、市の直接運営ではあるが、植栽管理においては、市民ボランティア団体が行っている。

本市においても、地域の特性にあった公園の活性化や在り方について考えるうえで、先進事例として見附市を参考としたい。

## 三 条 市

市制施行	平成 17 年 5 月 1 日
人 口	97,557 人
世 帯 数	36,354 世帯
	(令和元年 6 月 30 日現在)
面 積	431.97 k m <sup>2</sup>

三条市は、中越地方、新潟県のほぼ真ん中、新潟市と長岡市の間に位置している。数多くの金属加工の中小企業が存在し、隣接する燕市と合わせて「燕三条市」として認識される程の「ものづくりの集積地」として知られている。

また、三条市は信濃川の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた、農産物の多品目産地でもある。

### 視察事項

#### 【ものづくりの活性化について】

##### 1. 伝統技術の継承・展開

1600 年代・・・江戸時代初期に代官所奉行が河川の氾濫で苦しむ農民救済のため和釘づくりを奨励。

1800 年代後半・・・鍛冶職人が増加し、和釘鍛冶が刃物鍛冶、銅器、やすり、煙管等へ転換。

1900 年代後半・・・ハンマーやプレスが中心と新しい製品製造の転換が進む。  
また、ステンレス製洋食器が広まり、金属ハウスウェアの生産が高まる。

##### 2. ものづくり集積としての課題

- ・人材不足
- ・若年層の流出
- ・後継者不足

##### 3. 産業振興施策の事例

- ・コト・ミチ人材活用事業（B to C 系企業支援）

経営～製品開発コンサルティング支援、人材育成支援、販路開拓支援など  
(売上及び従業員数が 3 年で約 2 倍になった事業者がある)

- ・燕三条ものづくりメッセ（販路開拓）

金属加工技術の集積の強みに関する情報を発信するため、個々企業の技術力を製品として展示することで「ビジネスにつながるインパクト」を高める。

- ・海外販路開拓事業（販路開拓）

市内企業の経営基盤の維持存続に資する海外販路を確保するため、新たな顧客が見込める国や地域をターゲットとし、現地での展示会開催や販路開拓に関する市場調査を実施。（例：国際展示会への出展や EC サイトを利用した販路開拓）

#### 4. 三条ものづくり学校

##### （1）検討経過

◇H23 年度から検討

⇒旧南小学校が H25 年度をもって、廃校予定  
検討当初は青少年育成関連施設がメイン

◇H25 年 3 月に新規創業者支援施設として検討

⇒デザイナー、クリエイターの拠点となるよう、施設内に貸事務所の設置

◇H27 年 3 月竣工（平成 27 年 4 月 16 日オープン）

⇒事業費：450,000 千円  
（改修：430,000 千円、備品等：10,000 千円、実施設計：10,000 千円）

##### （2）運営状況等

- ・施設管理・・・指定管理者
- ・管理者・・・(株)ものづくり学校
- ・年間経費・・・約 33,000 千円 (H28)、約 29,000 千円 (H29)、約 26,000 千円 (H30)
- ・運営体制・・・事務局長 1 名、スタッフ 2 名、アルバイト 3 名の計 6 名体制

##### （3）施設コンセプト

「はらたく」、「まなぶ」、「あそぶ」を通じて、三条市のものづくり産業の高付加価値化、情報発信力の強化、次世代のものづくり人材の育成など、さまざま波及効果を創出する施設。

「はたらく」・・・首都圏などからの UJI ターン者の受け入れ、首都圏とネットワークの形成、大学、産業支援機関等との連携

「まなぶ」・・・ワークショップの開催、オリジナルのセミナー、スクールの開催

「あそぶ」・・・ものづくり拠点からの情報発信、イベントの開催

#### (4) 地域交流施設

高齢者の交流の場として提供されている和室や、在宅のおおむね 60 歳以上の家に閉じこもりがちな虚弱者で、日常生活において支障のある方に対し、趣味活動や介護予防、昼食の提供などを行う調理室及び和室もある。

また、学校施設内に三条市青少年育成センターもある。

※同センターは、公の施設であるため、ものづくり学校とは別運営

#### (5) ソフト事業

- ・教室を利用したミニ四駆ルームの設置

ミニ四駆及びミニ四駆用工具の常時展示や走行体験、大会開催を行っている。

- ・3D プリンタ活用体験

パソコンを使い、3D プリンタで制作するデータ作成など、3D プリンタでしか出来ないようなモノを試験的に作製。

- ・ものづくり学校入居者によるワークショップ

仏壇製作技術を使った料理教室、模型作りを通した建築設計の仕事体験、炭づくり体験など。

### 5. まとめ

少子高齢化、若者流出に伴い、全国的に地域の伝統技術や地場産業技術の後継者不足、人材不足が深刻化しているなかで、三条市では、伝統技術を継承するための人材育成、ものづくりの魅力発信するための販路開拓やものづくり産業の高付加価値化の取組みを実施している。その中でも、廃

校をリノベーションした施設である「三条ものづくり学校」では、次世代の人材育成や情報発信の強化などをコンセプトとしており、またワークショップによる体験やイベントの参加を通して、ものづくりの魅力や楽しさを知ってもらうことができる。

本市における伝統的地場産品についても、視察研修したことを参考とし、後継者不足、人材不足の対策や販路開拓、魅力発信などの展開を考えていくことが重要である。

以上

なお、詳細については、議会事務局に資料を保管していますので、ご覧ください。